

私のおすすめ

◎このコーナーでは、子育てや障害、認知症・介護当事者の目線から、普段の暮らしに役立つ「おすすめ」なものを紹介します。

映画「認知症と向き合う」のご紹介

この映画は、認知症によく見られる症状、家族の混乱、認知症の人の思いと家族の気持ちの変化、症状の理解、介護者の交流の大切さなど、認知症をめぐるさまざまな問題を、誰にでも分かりやすく理解できるように制作された、感動的なドラマです。

認知症の人と家族の会神奈川県支部代表の杉山孝博医師が監修・出演しています。既に5,000名以上の方に見ていただいておりますが、大変好評です。

認知症の人の数は、2017年は約550万人、2025年には約700万人と推定され、極めて身近な問題になりました。介護家族、医療・福祉専門職、行政機関など、認知症に関わる人の数はますます増えています。

認知症について、どの人にとっても、興味を引き、理解しやすく、納得できる教材が必要です。そこで、映画「認知症と向き合う」(東映(株))を紹介します。

◆映画のあらすじ

認知症の文乃は、娘夫婦(春樹、翔子)や孫娘と同居することになりました。しかし、ひどい物忘れや徘徊、家族への暴言・暴力を繰り返す文乃の言動に家族は振り回され、ばらばらになってしまいます。

そんなとき、春樹はある喫茶店で格別においしいコーヒーを飲み感動。マスターの妻(節子)から、夫は3年前から認知症ですと言われてびっくりします。節子から「認知症って、確かに色んな事を忘れちゃうし、大変な事もいっぱいある。でも、その人であることに何も変わりがないのよ。大切な事はちゃんとして(胸)で覚えてる。悲しかったり嬉しかったり、他の人とおんなじように一生懸命生きてるの」という話を聞き、心を動かされます。

春樹が家で渡された文乃のノートには「カレー、だれも食べてくれない」、「かぞくにメイワクかけてる。ごめんさい」、「教師の私がバカになるなんて。娘にしかられる。情けない」、「私のせいで、かぞくがバラバラ。シニタイ」——家族の誰もが気付かなかった文乃の思いが書かれていたのです。

後日「認知症カフェ」に参加し、認知症を専門とする杉山孝博医師の講演を聞くことができました。

杉山医師が認知症の特徴を話し始めると、参加者は納得した表情で聞き入ります。春樹と翔子の頭の中に

今月は

⇒ **認知症の人と家族の会神奈川県支部**

がお伝えします!

認知症の人と家族の会は1980年に、神奈川県支部は1981年に発足。以来今日まで、介護家族の集い、電話相談、会報の発行、啓蒙活動、調査研究、行政への要望などを行って来ました。

〈連絡先〉川崎市幸区南幸町1-31 グレース川崎203号
☎ 044-522-6801
毎週(月)(水)(金)10時から16時



は、文乃の以前の言動がフラッシュバックして、思わず納得するのでした。

◆鑑賞者の反響

今年4月、京都で国際アルツハイマー病協会国際会議が開催され、76カ国から認知症本人約200名を含む約4,000名が参加しました。

この映画を英語字幕付きで上映し、外国人も含む434名が鑑賞しました。アンケートでは「家族の中での大変さや、ご本人のつらさ、関わり方のヒントなど参考になる内容がたくさん入っていて興味深かったです」「認知症の理解が深まる、よく考えられた作品だと思いました」「サポーター養成講座で上映しました。介護することやご本人の苦悩が伝わり、涙を流しました」「家族や小中学生を対象とした研修にも使えると思いました」等の感想をいただきました。

上映時間が30分間と短く、DVDの再生機とプロジェクターがあれば見ることができます。認知症サポーター研修、地域や企業・団体の勉強会、福祉施設などの職員研修、介護・看護の授業教材、民生委員児童委員の研修会などいろいろな機会に活用いただき、参加者が体験や感想を出し合って、認知症をさらに深く理解する機会をつくるのも良いのではないのでしょうか。

インフォメーション

「認知症と向き合う」DVD概要、予告編は東映(株)社会教育映像部のホームページでご覧いただけます。

☞ <http://www.toei.co.jp/edu/>

DVD貸出については、認知症の人と家族の会神奈川県支部にお問い合わせください。